

Society 5.0時代の教育ICTにおけるクラウド活用

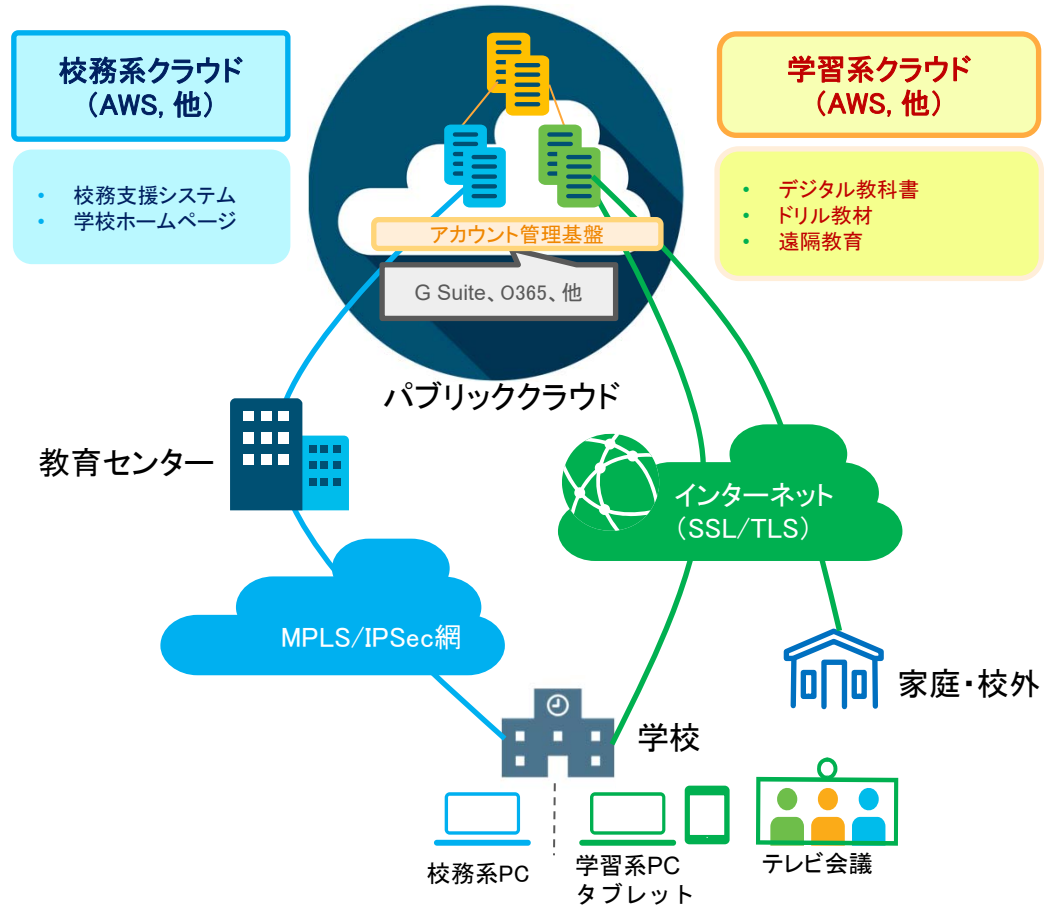
Society 5.0時代に生きる子供たちにとって、PC端末は鉛筆やノートと並ぶマストアイテムです。そして、1人1台端末環境は、もはや令和の時代における学校の「スタンダード」であり、特別なことではありません。

1人1台端末による新たな教育の技術革新は、多様な子供たちを誰一人取り残すことのない公正に個別最適化された学びや創造性を育む学びにも寄与するものであり、特別な支援が必要な子供たちの可能性も大きく広げるものです。

また、1人1台端末の整備と併せて、統合型校務支援システムをはじめとしたICTの導入・運用を加速することで、授業準備や成績処理等の負担軽減にも資するものであり、学校における働き方改革にもつながります。

そして、これらのSociety5.0時代の教育ICTは、クラウド活用があってこそ実現が加速されます。

教育情報化の推進力となるクラウドの活用



クラウドサービスの利点

1. データのポータビリティが向上する。
2. 多様な教育サービス・データとの連携が可能になる。
3. 高いセキュリティと耐障害性が向上する。



教育現場では

教員・生徒

- 多様な学び方の提供(校外・家庭学習、療養時等)
- スムーズな高大接続(学習データの蓄積)
- 学びのネットワーク拡大(遠隔教育)
- 教員の働き方改革実現
- 災害時への柔軟な対応
- データに基づいた学校経営

IT担当(学校)

- サーバ周辺の運用負荷の軽減(トラブル、セキュリティパッチ等)
- 容易なシステム監査業務

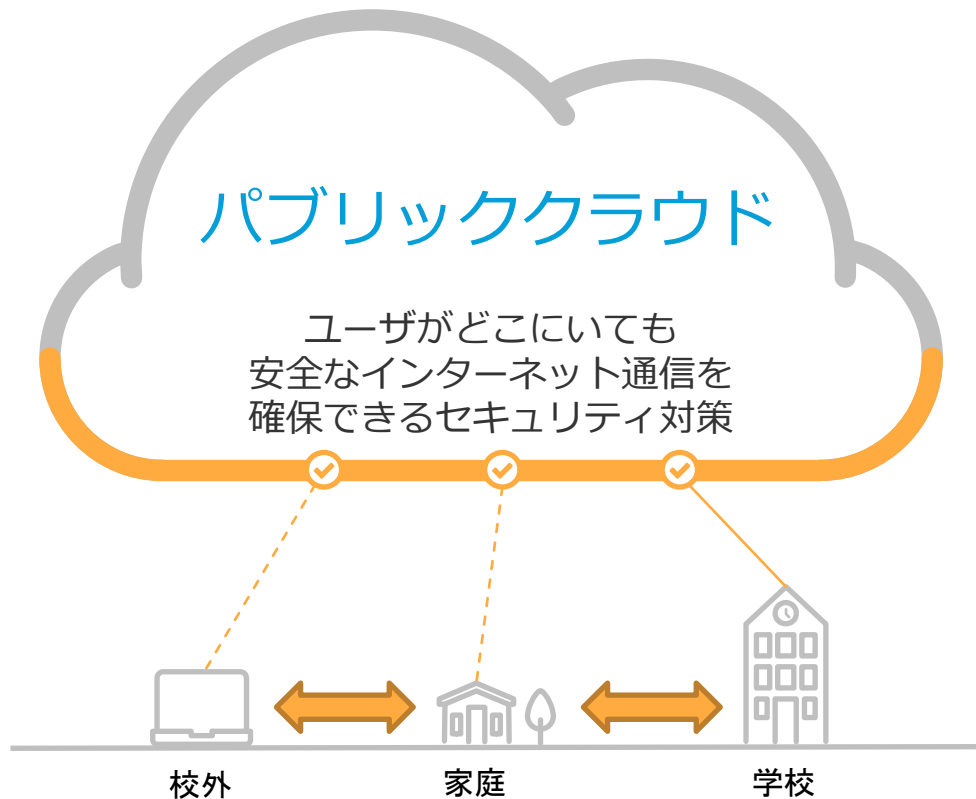
調達担当(教育委員会等)

- シンプルな仕様書による調達
- 多様な課金方法によるトータルコスト削減の可能性



クラウド活用におけるセキュリティの考慮点

クラウド活用におけるセキュリティの考慮点



<端末>

多要素認証/シングルサインオン

クラウド型Eメールセキュリティ(O365,Gsuite)

<通信>

暗号化(IPSec、TLS)

アプリ/サービス毎の通信経路の最適化

DNSの名前解決を利用した対策機能

<管理>

トラフィックの可視化/振る舞い・脅威の検出

複数クラウド環境下のポリシー管理 (CASB)

客観性のあるセキュリティ第三者認証の取得